

令和3年度入学者選抜 松本県ヶ丘高等学校 前期選抜 小論文問題1

I 出題の趣旨

- (1) 社会の諸問題に目を向け、そこから課題を見つけ出すことができるかをみる。その際、今までに学習した知識を用いて、探究活動につなげられるかをみる。
- (2) 世界的な課題になっている食料問題・農業の在り方について、我が国における課題を見つけ出す力をみる。その際、他国との比較や最先端の技術に関する資料やデータから情報を正確に読み取り、解決に導くためのヒントを得て、論理的な文章として総合し、表現できる能力をみる。
- (3) 基本的な英文の読解力をみる。

II 評価の観点

- 問1 表の数値を正しく読み取り、増減率の計算ができているか。
- 問2 表やグラフの情報を正しく読み取り、分析・評価できているか。
- 問3 資料6から収穫量が追いつかなくなる要素として該当するデータを的確に拾いあげて説明できているか。
- 問4 今までに学習してきた知識や、資料1～8の与えられたデータや文章から、必要な情報を正しく読み取ることができているか。また、それらを用いてスマート農業導入のメリットが述べられているか。  
適切な文字数で、自分の考えを論理的に、わかりやすく表現できているか。
- 問5 英文から、適切な内容や情報を読み取ることができているか。

III 解答例

- 問1 39.2 (パーセント)
- 問2 ウ
- 問3 資料6によると、穀物生産量・単収とも増加している。しかし、収穫面積はそれほど増えておらず、「1人あたりの収穫面積」が減少し、「単収の伸び率」も鈍化しているといえるから。(84字)
- 問4 日本の農業は、経営体・担い手の減少や高齢化、耕地面積の減少といった問題を抱えている。一方で、耕地面積の集積化が進み、農家1戸あたりの耕地面積は増加傾向にあり、また、法人の農業経営、集落営農数も増加している。世界に目を向けると、人口増加に対して、さらなる食料増産が必要である。これらから、広い耕地を少人数で行う、効率のよい農業経営が求められる。スマート農業の導入により、この分野での先進国オランダのように、農作業の省力化・軽労化が進み、少人数での農業が可能となり、熟練農家の技術も継承され、国内消費・輸出とも、より増加させられる。これにより、日本の農業の抱えている様々な問題を解決できるメリットがある。

(300字)

- 問5 イ